



TEAM FUKUOKA NEWS 2022



福岡県選手団サポートニュース R4. 1.26 Vol.2

ショートトラック 成年男子5000mリレーで初優勝！！

昨日の準決勝を勝ち上がり、25日(火)の決勝に臨んだ成年男子ショートトラック5000mリレー。スタート直後から1位をキープし、お互いの様子をうかがいながらのレース展開となった。残り10周を切ったところから各チームが勝負をしかけ、先頭争いが激しくなる中、本県成年男子チームが選手交代の際にバランスを崩しまさかの転倒。立ち上がるも3着でゴールイン。しかし、レース終了後の判定により、1・2着でゴールしたチームに違反があったことが判明したため、本県成年男子チームの繰り上げ優勝が確定した。

井上瑠汰選手(中京大学)は「どんな形であれ、1位になって良かった」、田平修大選手(神奈川大学)は「2年前は先頭で転倒した。今回も転倒があったが、3人のおかげで1位を獲れて良かった」、井上幹皓選手(阪南大学)「練習の成果が出て嬉しい。優勝できて良かった」、大塚貴之選手(阪南大学)「途中で転倒したが、最後まで滑って優勝できて良かった」とチーム全員で初優勝の喜びを噛み締めた。

転倒というアクシデントがあっても、最後まで諦めない強い気持ちが今回の快挙につながった。



優勝した
ショートトラック
成年男子チーム



ショートトラック 成年女子3000mリレーで見事2位！！

男子と同じく25日(火)の決勝に勝ち進んだ本県成年女子チーム。レース序盤から先頭の山梨県チームを追って2位をキープしながら様子をうかがう展開。レース中盤、後続のチームに詰め寄られるシーンもあったが、懸命な追い上げを退け、最後は逃げ切り、価値ある2位となった。

【古賀あや監督兼選手のコメント】

黒川輝衣選手(株)ヨコハマタイヤ)、高橋花菜選手(中京大学)は、24日(月)の個人種目で入賞し体力の限界を超えていたと思うが、気持ちを入れて頑張ってくれた。目標は3位以内だったが、接戦を競り勝って2位に入賞したことは、選手全員が喜びを感じています。コロナ禍での参加は、本当に難しいものがあったが、たくさんの方のお力添えでこのような結果を残すことができ、本当に感謝している。ありがとうございました。

フィギュアスケート 少年女子3位！少年男子4位！

【少年女子】

江川マリア選手(香椎高校)、鴨井彬莉彩選手(東筑紫学園高校)とともに、華麗で丁寧な滑りを披露。江川選手は、彼女の持つスケーティングスキルの高さが評価され、ショートプログラム(SP)の2位に続き、フリースケーティング(FS)でも3位となり個人総合3位(165.70点)で終了したが「完全に納得いく演技ではなかった」と悔しさをにじませた。また、鴨井選手は演技力の高さを感ぜさせる滑りを見せたが、個人総合13位(128.61点)となり、「国体の舞台上で少し緊張した。いつも通りの演技ができず悔しい」と振り返った。結果、2名の合計点から都道府県別成績で、前回大会の4位を上回る3位入賞となった。

【少年男子】

SPで5位の松岡隼矢選手(沖学園高校)は、曲に合った軽やかなステップと強弱のあるスピンドで演技を披露しFSで12位、個人総合8位(150.70点)で終了。また、SPで7位の垂水爽空選手(角川ドワンゴ学園N高校)は、持ち味の力強い滑りと高さのあるジャンプを披露しFSで16位、個人総合13位(140.30点)で終了した。結果、都道府県別成績で前回大会の10位を大きく上回る堂々の4位入賞を果たした。



2位となった
ショートトラック成年女子チーム



3位 フィギュアスケート 江川選手、鴨井選手



4位 フィギュアスケート 垂水選手、松岡選手

スケート競技会総合成績(1月25日現在)
※フィギュア 成年男子・女子の得点除く

順位	都道府県名	得点
1	福岡県	87
2	兵庫県	72
3	長野県	70
4	愛知県	69
5	神奈川県	64
6	大阪府	56
7	東京都	52
8	山梨県	42

国体豆知識

【国体におけるフィギュア競技の順位決定について】

フィギュアスケートは、成年・少年男女それぞれ2名がエントリー。まずは、全競技者がSP(ショートプログラム)を行い、2名の合計点数上位12都道府県の選手により、FS(フリースケーティング)が行われる。最終的に、各都道府県2名の合計点で各種別の順位が確定する。